

【日田教育事務所】「自立した学習者」の育成をめざす授業について考える

【中学校】初任者研修に係る校外研修「授業参観」(中) 令和8年5月21日(木) 日田市立南部中学校

◆要旨◆ <参加者>管内中学校初任者、教育事務所指導課員

○目的… 令和8年度初任者研修の対象者に対し、教科指導に係る授業参観・研究協議を通して、実践的指導力の向上を図る。

○授業参観及び協議の視点

「授業中における自立した学習者の育成について
～子どもに「まかせる」「ゆだねる」場のある授業構想～」

【協議の柱】・子どもに「まかせる」「ゆだねる」場における教師の手立て、その効果について
・「努力を要する状況」の生徒等、個の実態に応じた具体的な手立てについて
・学びの成果を実感し、次につなげる「振り返り」について



授業の概要

- ◆中学校 第3学年 社会科
- ◆単元名 「世界恐慌と日本の中国侵略」
- ◆教材名 歴史的分野内容項目C「近現代の日本と世界」
「(力)第二次世界大戦と人類への惨禍」より
※4時間目／全6時間

◆本時のねらい
「日本の不況への対応について、満州確保による解決と満州放棄による解決を資料から比較するとともに、当時の社会状況や国際情勢と関連付けて考えることを通して、当時の日本が満州事変(確保)による解決を選択した理由を多面的・多角的に考察することができる。」
(思考・判断・表現)

【めあて】
日本が満州事変へと突き進んだ理由を4つの観点から考えよう

【課題】
満州事変へと進む流れの中で、
「軍部」「政党政治」「欧米諸国(ファシズム)」「国民」は、
それぞれどのような考えをもっていたらうか

【まとめ】(例)
「軍部」国の発展のために、最も重要な戦力拠点のため、満州へと進もうとした ⇔ 参考資料 石原莞爾の言葉
※4つの観点それぞれでまとめている

【振り返り】 視点「4つの観点を関連付けて書く(予想との比較 他)」

受講者の学び(「アンケート」より)

- 授業の導入場面で前時の復習を取り入れることが、学びの連続性につながることを理解した。
- ペアや近隣の生徒との交流において、教員の指示により生徒が即座に動いていた。また、自身の意見が固まっていない生徒が、積極的に他者へ意見を聞きに行く姿が印象的であった。
- 全員に一律の資料を与えるのではなく、各班で異なる資料を提示するなど、ICTの活用と個別指導が合致しており、今後の授業の参考としたい。
- 授業規律が整い、生徒が安心して学ぶ環境が構築されていた。学級経営が授業づくりに大きな影響を与えていると感じた。

